

No. 1484

点描 三浦半島

房総半島の富津岬までわずか7キロ。三浦半島の東の端で東京湾の入口にある観音崎灯台、我が国で最初の洋式灯台が建造されたのは明治2年のことでした。アメリカ東インド艦隊司令長官ペリーの来航によって、200年以上も続いた徳川幕府の鎖国政策が崩れ去りました。

日本人だけで初めて太平洋を横断した咸臨丸は浦賀港から出航しました。東京湾の入口には、海外との往来がはげしくなるにつれ、外国船の来航にそなえた台場の後が、今も残っています。軍と共に栄えた横須賀、世界三大記念艦の一つともいわれる「みかさ」がありし日の雄姿をとどめています。数々の歴史を秘めた半島の海、一年中旅人の絶えない三浦半島が一番人気を集めるのはやはり夏。美しい海岸は海水浴客で賑わっています。

印籠踊る盆の夜

— 郡 上 八 幡 —

四方を山々に囲まれた岐阜県郡上郡八幡町は郡上おどりの里で知られている。郡上おどりは7月14日から9月15日までの2ヶ月間のロングランである。地元八幡町に住む岩崎秀也さんは3度のメシより踊りが好きとあって、祭りが近づくと家の障子に影を映し、練習をはじめめる。そして、踊りのいでたちはしり端折りに、はちまき、腰に大きな印籠をつける。踊るしぐさは、エーモラスを生み、郡上おどりに欠かすことのできない名物男になっている。そして、岩崎さんにおくられた詩も数知れない。「大きな印籠さも面白そうに、踊る輪の中人の仲」岩崎さんの印籠はきょうも郡上の夜に舞っている。